

学校・家庭・地域が一体となって…

松戸市立栗ヶ沢小学校 教頭

たけだ あつし

武田 淳

今から十数年前のことですが、根木内小学校に勤務していたことがあります。ちょうど学校五日制が施行される頃のことです。当時は、休みになった土曜日を子どもたちにどう過ごさせるかということで様々な視点から研究を進めていました。休業土曜日には子どもたちを家庭や地域に帰すという取り組みです。家庭教育や地域の教育力に期待がかかっていました。今でもそれは変わりません。保護者や地域に声をかけ、校庭の飼育小屋脇に煮炊き鍋をしつらえて大人と子どもで楽しく豚汁作りをしたことが思い出されます。当時関わっていただいた方が、今ではこの地域になくてはならない存在の『おやじの会』に繋がってはいないでしょうか。一方学校の中では、土曜日に学校が休みになることで子どもたちの学力を低下させない、もっといえば指導方法の工夫や改善をすることで逆に学力をあげる機会とすることができないかという研究も同時に行っていました。当時の文部省の研究指定を受けていたこともあって授業の工夫や、小金原中央商店街での取材を番組にまとめて研究大会で発表しました。学校は地域の中にあり、その地域の人々に支えられています。栗ヶ沢小学校に着任してはや8ヶ月、改めてちょっと小金原について思いをめぐらせれば、日々の子どもたちの見守り活動に始まって各町内会の行事、お祭り、福祉フェア等々確かな息遣いが感じられる地域であることがわかります。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていくことができる町、それが小金原だと思います。